



LPSコンサルティング事務所 代表

# 田村弘志氏

1976年東北大学卒業後、生化学工業(株)に入社、細菌内毒素(エンドトキシン)の迅速定量など多くの技術・製品開発、特許取得、米国子会社への技術移転等に中心的役割を果たす。2013年、LPSコンサルティング事務所(代表)を開設(代表)。埼玉大学大学院理工学研究科で博士号を取得。順天堂大学医学部非常勤講師、東京薬科大学客員研究員、NPO日本バイオベンチャー推進協会(JBDA)理事・事務局長、(株)プロップジーン顧問、内毒素LPS研究会運営委員、Gerson Lehman Group カウンシルメンバー、日本DNAアドバイザー協会 会長。

## LPSコンサルティング事務所

☎ 03-6383-3919  
☎ 03-6383-3928  
③ 東京都新宿区西新宿4-7-13 モアエミナス西新宿104  
✉ htamura@lpsct.com  
http://www.lpsct.com/  
順天堂大学医学部生化学・生体防御学講座  
http://www.juntendo.ac.jp/graduate/  
laboratory/lab/seikagaku\_seitaibogyo/  
html/index\_j.html

技術イノベーション、新製品開発、特許、論文、セミナー企画、バイオ事業の推進、大学ゼミ等で多くの実績を重ねる

【主な業績】カプトガニ凝固系を用いたエンドトキシンの高感度定量システムの開発(エンドトキシン試験法として薬局方収載)、グローバルな臨床応用(深在性真菌症診断薬、FDA認可取得)、抗菌ペプチド、βグルカンなどのバイオ素材による創薬の探索および権利化等を推進。

## バイオテクノロジー関連の事業化プロジェクト推進を支援 投資対効果の高い技術開発からマーケティングまで

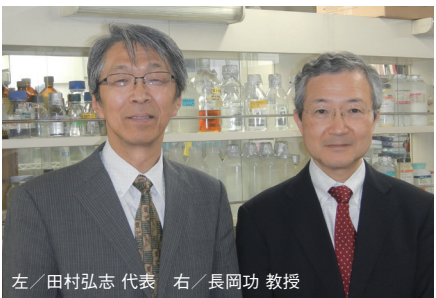
市場開拓の種や芽を育て、ニーズに合致したイノベーションの創出と事業化の取り組みを効果的に支援する。

# Person on Topic

INTERVIEW | 地域産業を考える…③

ヒトを含む様々な動植物の体を構築するタンパク質、核酸(遺伝子)、酵素、さらには細胞や器官を対象とした新しい医薬品や医療機器、先端医療の発掘に大きく貢献しているバイオ素材。宇宙開発と同様に、バイオ素材は未来につながる大きな可能性を秘めている。

「Lps(Laboratory Program Support)コンサルティング事務所」ではバイオ素材の持つ魅力を最大限に引き出し、新たな価値を生み出すための仕組みづく



左/田村弘志 代表 右/長岡功 教授



「アメリカカブトガニ (Limulus polyphemus)」

した名言、"I am still learning" (私は今もなお、学び続けてい)を座右の銘としています。当事務所が持つ高度な専門性や先見性、柔軟な発想力と豊かな人脈を活かして皆様の研究やビジネスの効率的かつ継続的な推進のお手伝いに努めて参ります」

### LPSコンサルティング事務所の活動内容

2013年に設立した「LPSコンサルティング事務所」では、長年培ってきた経験やノウハウ、人脈を生かした独自のサービスを通してバイオ関連企業やベン

りや戦略立案及び実行プランの策定を支援している。「LPSコンサルティング事務所」代表の田村弘志氏は、大学時代にタンパク質と酵素の構造と機能、植物培養細胞の確立と生化学的研究に没頭し、時には覆袋持参で研究室に泊まることもあったとい

う。その後30年以上製薬企業に在籍、疾患モデルによる薬効評価、新規研究用試薬や測定装置の開発、臨床診断薬の探索と臨床応用、権利化や海外企業への技術移転などで中心的な役割を担ってきた。

その中で最も大きな経験は生きた化石とも呼ばれるカプトガニ(写真)の血球成分を用いて、細菌や真菌の菌体成分を短時間で定量できる高感度測定システムを世界に先駆けて開発し、市場への導入に

チャアの事業展開支援、グローバルな成長支援ならびに産業界のニーズに対応した人材育成を推進している。

① 順天堂大学医学部生体防御学教室の長岡功教授を特別顧問として、生体防御(抗菌)ペプチドの持つ多機能性に注目、創薬や機能性素材への応用と実用化を目指している。

② バイオ医薬品、再生医療等製品、医療材料の安全性と品質向上を図るため、関連施設に向けた微生物試験、エンドトキシン試験、局方未収載試験法(βグルカリン)の正しい理解と適切な導入を促す。

③ 最新の技術動向調査と特許情報の分析、開発研究と事業化戦略、市場開拓、ソリューションの提案ならびに臨床研究、薬事承認申請に係る専門的なアドバイスを提供、効率的かつ効果的な実行を支援している。

④ 2016年6月からは東京大学医学部分子予防医学講座の松島綱治教授を会長とする日本バイオベンチャー推進協会(JBDA)の理事・事務局長として、定期セミナーの開催やベンチャー企業の育成と相互の交流にも力を注いでいく。

⑤ 株式会社プロップジーン、株式会社MP

成功したこと。医薬品の品質や安全性の向上、感染症の早期診断と治療に大きな進歩をもたらす結果となった。

「バイオ素材が持つ無限の可能性を最大限に引き出し、独創的で発展性のある応用研究や事業創生、人材育成をお手伝いしたいと願っています。気持ちだけではいつまでも若く、いろいろな分野の方たちと酒を飲み交わしながら未来を語るのが好きです。失敗を恐れず挑戦し続ける熱意と愛情さえあれば、日本発のテクノロジー、イノベーションでまだまだ世界は変えられます。」と語る田村代表。「Freedom to Fail(失敗する自由)をモットーに、ベンチャーマインドを醸成しつつ、日々成長し続けることが大切だと考えています。そのためには、ルネサンスの巨匠ミケランジェロが87歳の時に残

バイオジャパンのバイオ関連商品や受託サービスなど、独創的かつ先進的な発想と高度な技術から生まれた高品質の研究用試薬、感染症検査試薬、バイオ機器等の普及発展を支援している。

⑥ 2014年より日本DNAアドバイザー協会の会長として肥満糖尿病脂質異常症・高血圧など生活習慣病の予防体質改善を目的に消費者向け遺伝子検査の適切な導入と活用を促している。

⑦ 各種学会、研究会、セミナー、交流会等の企画立案に参画し、産官学の研究者や臨床家、企業の方々のニーズに合わせた最新情報の提供ならびに相互の親睦と情報交換・情報共有の場づくりをサポートしている。

このほか、田村代表は順天堂大学医学部非常勤講師や東京薬科大学薬学部免疫学教室(大野尚仁教授の客員研究員、大学ゼミの外部講師を務める傍ら、内毒素LPS研究会の運営委員やベンチャー起業の顧問、海外学術雑誌の編集委員、論文査読者、ガーンソン・レーマン・グループのカウンシルメンバーなど、幅広く活躍している。

(ライター)安藤花子